

静岡県茶奨励品種等におけるてん茶適性

[研究のねらいと取り組み]

- ・近年、県内で、てん茶の生産が増加しているが、てん茶用品種の利用はほとんど見られない。
- ・てん茶用品種への転換は時間やコストがかかり、速やかに抹茶需要に対応するためには、既に静岡県内で栽培されている煎茶用品種によるてん茶生産が必要となる。
- ・このため、静岡県茶奨励品種等に遮光率85%で直接被覆したときの特性を明らかにし、てん茶生産に適する品種を選定する。

[研究の成果]

- ・直接被覆による10a当りの一番茶収量は、「さやまかおり、さわみずか、香駿」が「やぶきた」よりも20%以上収量が多く、1,000kg/10a以上であった(図1)。10a当りの二番茶収量は、「香駿」、「さやまかおり」、「つゆひかり」の順で多かった(データ略)。
- ・一番茶の葉色(SPAD値/葉厚)は、「おくみどり、さわみずか、ゆめするが」が相対的に高かった(図2)。二番茶の葉色(SPAD値/葉厚)は「やぶきた」が最も高い値であった(データ略)。
- ・一番茶の荒てん茶品質は、評点の合計は「つゆひかり、香駿」で高く(図3)、「香駿」は長期被覆した場合でも、甘い香味があり特徴的な品質特性を有していた(データ略)。外観(主に色沢)と、から色の小計は、「つゆひかり、香駿、おくみどり」の評点が高く、香気と滋味の小計は、「さえみどり」が高かった(図3)。二番茶の荒てん茶品質は、一番茶と比べ劣ったが、「香駿」は二番茶でも甘い香味が認められた(データ略)。

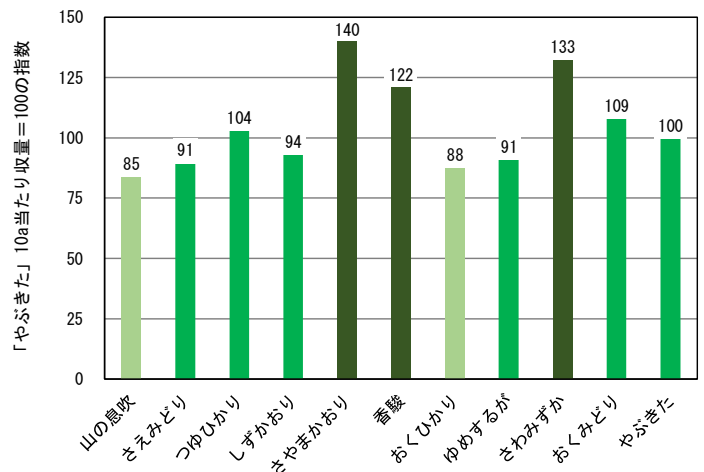


図1 収量性(10a 当たり一番茶収量)
(3カ年平均、一番茶・二番茶連続被覆処理
「やぶきた」=100の指数)

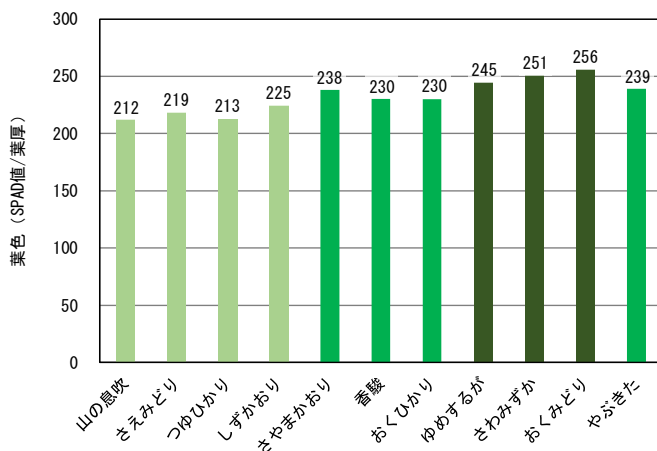


図2 葉色 (SPAD 値/葉厚、一番茶)
(2カ年平均、一番茶・二番茶連続被覆処理)

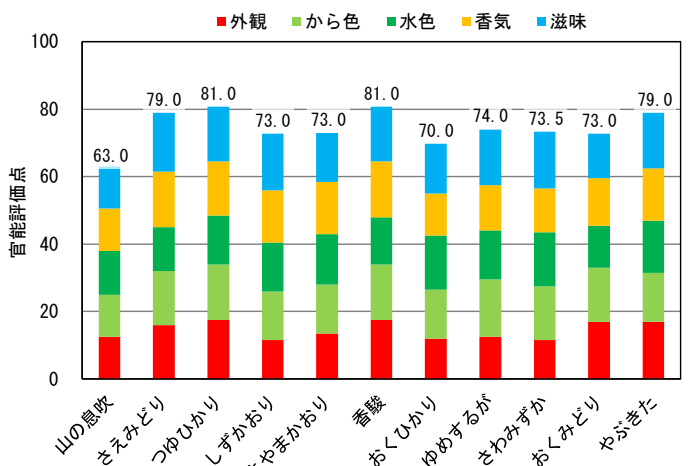


図3 荒てん茶品質 (一番茶)
(2カ年平均、一番茶・二番茶連続被覆処理、
各項目20点満点)